

令和4年10月14日

保護者各位

鳥栖市立田代中学校  
校長 西村 茂樹

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について（お知らせ）

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果が文部科学省から公表されましたので、その結果をもとに本校の結果について分析をしました。結果の概要についてお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

### 1 令和4年度全国学力・学習状況調査について

令和4年4月19日、下記のような内容で全国一斉に中学校3年生を対象として実施されました。調査内容は、次のとおりです。

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践評価・改善する力等
調査問題では、①と②が一体的に問われています。
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関して調査されています。

### 2 教科に関する調査結果から全国の平均正答率と比較して見える本校生徒の姿

#### (1) 国語について

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率を下回っていました。
- ・無解答率は、ほとんどの問題で全国を下回っていました。
- ・「話すこと・聞くこと」の領域では、聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する問題で、正答率が高く、全国の平均正答率を上回っていました。2・3年生は、与えられたテーマでグループごとに話し合う「立席会議」の取り組みの効果が出始めたものと思われます。
- ・「知識及び技能」の「言葉の特徴や使い方に関する事項」では、全国の平均正答率を下回り、表現技法について理解することに課題が見られました。
- ・必要な情報を資料から引用して、根拠を明確にして文章を書く問題の正答率は低い傾向にあります。課題テストや定期テストの問いの工夫が必要だと思われます。

#### (2) 数学について

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率をやや上回っていました。
- ・無解答率は、すべての問題で全国を下回っていました。多くの生徒が、あきらめずに根気強く取り組んだことが伺えました。
- ・領域では、「関数」「データの活用」が全国の平均正答率をやや上回っていたものの、一次関数の変化の割合を理解している、(図形の)筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することのできる問題については正答率が低く、課題が見られました。

#### (3) 理科について

- ・全体の平均正答率は、全国の平均正答率をやや上回っていました。
- ・無解答率は、ほとんどの問題で全国を下回っていました。
- ・領域では、「地球」を柱とする領域で、全国の平均正答率を下回っていたものの、「エネルギー」「粒子」「生命」を柱とする3領域では、全国の平均正答率をやや上回っていました。

- ・化学変化に関する知識及び技能を活用して、水素の燃焼を分子のモデルで表した図を基に化学反応式で表すことができるかどうかをみる問題については、正答率が高くなっていました。一方、課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能が身に付いているかどうかを見る問題については、正答率が低く、全国の平均正答率を下回っていました。
- ・県と同様に、授業で身に付けた知識を日常生活や社会の中における現象と関連付けて考える問題の正答率は低い傾向にあります。定期テストでも、身近な現象と関連付ける問いの工夫が必要と思われる。

### 3 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査結果から見える本校生徒の姿

- ・数学の勉強が好き、授業内容がよく分かる、と答えた生徒の割合が全国を上回っていることが、数学の正答率の高さにつながっていると思われます。また、授業ではグループ活動等を通して、自分なりに解き方を工夫しようとする生徒が増えてきているようです。
- ・授業での「まとめ」や「振り返り」が定着してきつつあり、見通しをもって授業に臨む生徒が増えてきています。
- ・地域や社会のことを考える生徒の割合が全国を大きく上回っていることから、日頃の生徒会活動やボランティア活動の熱心な取組が伺えます。
- ・「自分には良いところがある」と答えた生徒数の割合は全国を大きく下回っており、自己肯定感や自尊感情が低くなっています。道徳や総合的な学習の時間の充実が必要と思われます。また、コロナ後の学校行事の復活が鍵になると考えられます。
- ・地域や社会のことを考える生徒の割合が高い反面、地域住民や地域行事に関わるのが少ないという課題が見られました。

### 4 今後の改善策（生徒の力をさらに伸ばすために）

- ・国語、数学、理科の結果から、基礎的・基本的なことが十分に身に付いていない領域がありました。そこで、授業では引き続き、教師2人によるTT授業を行い、きめ細かな指導による学習内容の定着を図ります。また、各教科において、ICT機器を活用し学習内容を視覚的に捉えさせたり、1人1台タブレットを用いた教材や学習活動などを効果的に取り入れたりして、個別最適な授業を行うための改善に努めていきます。
- ・家庭学習の習慣化にむけて、各教科で家庭学習の課題の内容や提示の仕方を工夫し、学習習慣の定着を図っていきます。
- ・学校、家庭、地域において、子どもの話を聞き、成功体験だけでなく失敗体験も含め、挑戦する姿勢を認め・励まし、自己肯定感を育む環境づくりが必要です。自尊感情の向上や、マナー検定を始めとするキャリア教育の充実にも引き続き取り組んでいきます。
- ・ご家庭でも次のようなことに心がけていただければと思います。

#### 1 家庭での学習時間をつくってください。【学習時間：学年＋1時間】

- ◎学習する時間や時間帯を決め、取り組ませることで学習習慣を身に付けさせましょう。
- ◎スマートフォンやゲーム機などの利用は、家庭での約束を大切にして、長時間にならないようにしましょう。
- ◎各教科ごとに間違った問題やテスト直し等復習を中心とした学習に取り組ませましょう。

#### 2 生活のリズムを整え、お子さんとのコミュニケーションの時間を上手に使いましょう。

- ◎早めに起床させ、必ず「朝食」を食べさせるようにしましょう。
- ◎「前の日に準備をする」など見通しをもった生活ができるようにしましょう。
- ◎将来の夢や就きたい職業等について話し合いましょう。

#### 3 がんばっていることや良くできたことをほめて、自尊感情を高めていきましょう。